

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101448		
法人名	社会福祉法人 晩会		
事業所名	グループホーム フェニックスの里		
所在地	下関市大字小野 64-1		
自己評価作成日	平成23年6月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、閑静な場所に位置しています。また、ホームの中には木がふんだんに使われており、共有スペースには畳や障子もあり開放的な空間となっています。利用者が意思表示できる雰囲気づくりを大切に、その人らしく、共に支え合える生活を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりのこれまでの趣味や日常の楽しみごとに加え、生け花教室や習字教室、手作り雛や七夕飾りづくりなど職員は月替わりのレクリエーション担当を決めて、活躍できる場面づくりや楽しみ事の支援をしておられ、法人の行事である「フェニックス祭」では、毎年、利用者全員がおそろいの浴衣を着て舞台上で踊りを披露されるなど、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。買物や散歩等の日常的な外出だけでなく、本人の思いや希望にそった墓参りや外泊帰省、バスハイクによる小旅行など、家族と一緒にできるだけ全員が外出できるように支援しておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員間で話し合い、地域密着型サービスとしての在り方を日々実践している	「地域との連携を図り、自立支援を目指し、利用者同士が共に支えあう関係づくりに取り組む」という地域密着型サービスの意義をふまえた新たな理念を掲げ、管理者とリーダーを中心に職員全員で共有し、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	勝山小学校の総合学習での交流や園児の訪問・夏祭りや地域の文化祭への作品出品・散歩や外出時に会った方と挨拶し、交流に努めている	自治会に加入しており、地元の公民館でのカップ祭りなどに参加し、利用者の作品を出展している。法人で主催している夏祭りへ地域の人が参加したり、農園や水田作り等に協力してもらうほか、地元の小学生や保育園児の訪問もあり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや文化祭、消防訓練を通じて、地域の方々に認知症の方との接し方や理解を広めている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	事業所全体で自己評価に取り組み、会議で話し合い・質の向上に取り組んでいる	管理者が、ミーティングで外部評価の意義を説明し職員は理解した上で、全員が自己評価表に記入し、管理者がまとめている。評価の過程で、職員一人ひとりが日々のケアの振り返りや見直しをすることで、新たな課題を見つけることができ、具体的な改善につながっている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、自治会長・児童民生委員・地域包括支援センター長・利用者の家族代表が参加しており、利用者の状況・行事・外部評価報告・意見交換を行いサービスに活かしている	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、行事報告、外部評価への取組状況等について話し合い、地域との交流について「利用者と馴染みのあるJAやスーパーに買物に行く」といった意見がでるなど、サービス向上に活かしている。	・参加メンバーの検討

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センターとの情報交換や相談等で連携している	更新の手続きや法律に関する相談、事業所の抱えている課題等については、法人の担当職員、管理者を中心に市の介護保険課に相談している。地域包括支援センターにもケアに関する相談、情報交換などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の身体拘束委員会に参加し、マニュアルを整備し、全職員は正しく理解し、抑制や拘束のない支援に取り組んでいる。玄関の施錠については徐々に開放できるように全職員で取り組んでいる	法人の身体拘束委員会に参加し、身体拘束排除マニュアルに基づいた研修も行っており、抑制や拘束のないケアに努めている。玄関の施錠は行っておらず、隣接する法人の協力を得て、見守りを行っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学び、マニュアルを作り全職員で周知している		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ行き、勉強をしており全職員で周知徹底している		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時等、契約書・重要事項説明書・パンフレット・説明文書を用いて十分説明を行い、不安や疑問点を必ず聞き、理解・納得を図っている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情受付窓口として職員や外部機関、第3者委員を重要事項に明示し、手続きも計画にしている。玄関など目に付く場所にも掲示し、家族には来訪時や手紙で意見や要望を問いかけている	訪問時や電話、運営推進会議等で意見や要望を聞き、苦情や要望があれば法人本部にも伝え、事業所のケースカンファレンスで話し合い、検討し運営に反映している。苦情相談窓口及び担当者、外部機関を明示しており、苦情処理の手続きも定めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議時、意見や提案、日常の意見を聞き、職員代表者会議で報告し、運営にも反映できるよう取り組んでいる	運営に関する職員の意見は、毎日の申し送り時や、月1回のスタッフ会議で取り上げ、職員全員で共有した後に月1回開催される法人の代表者会議で提案するというシステムをとっている。介護方法に関する意見などは、できることから改善していくよう心がけ、サービスの質の向上を図っている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に配置し、前向きに自己研鑽出来る目標を見据えた行動ができるような指導をしていきたい		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や事業所の研修で職員のスキルアップを行い、外部研修受講者は復命報告をし、業務に役立てるよう努力している	内部研修は、年間計画を作成し、毎月実施している。外部研修は、情報提供すると共に、職員の立場や習熟度に応じて管理者が推薦し、勤務の一環として年に3回程度受講している。毎月実施されている法人内研修への参加や資格取得のための勤務体制の配慮、日常的なケアに対する職員間同士の助言、指導等、ケアの質の向上に日々取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡協議会に加入し、研修や交流に参加し、同業者との連携・交流・事業所見学等で質の向上につながるよう取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい場所での生活による不安等を取り除けるよう、共有する時間を大切にし、要望や思いを取り込めるようにしている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時、入居時に必ず家族の要望・意見等しっかり聞き、入居後もコミュニケーションを図り、関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時、本人の状態や本人や家族の話の中から必要事項を見極め、他サービスが必要と判断した場合には法人内で対応できる体制をとっている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等できることは一緒に行い、昔の文化や生活の知恵を教えてもらったり、共に生活し支え合う関係づくりに努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況や日々の様子を伝え必要に応じて、受診の付き添いや外出について家族の支援を依頼し、面接時には居室にてゆっくり過ごして頂けるようにしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの人との交流や家族の協力を得て、外出する機会を設けている	利用者が以前利用していた店やスーパーへの買い物、行きつけの美容院の利用、隣接する通所施設の知人に会いに行くなど、なじみの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。昔からの知人や友人には手紙や年賀状を出して、時には訪問してもらったり、お正月やお盆には、できるだけ外泊の機会を持ってもらえるよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格を把握し、時には職員が間に入りお互いが支え合えるよう支援している		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、家族から相談があれば真摯に対応し、関連施設に入所された場合は面会に行き、経過を確認している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者に寄り添い、声掛けをして希望・意向の把握をし、家族や職員間で話し合い、介護記録に記載して、共通理解に努めている	利用開始時に、家族からの情報や生活歴を詳細に把握するよう心がけている。日常生活では、利用者一人ひとりに担当職員を配置し、毎日のミーティングの中で、本人の希望、意向を取り上げ、把握した内容は介護記録に記録し職員間で共有している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に生活歴や生活環境等については、情報収集に努め本人との会話の中からもアセスメントし、全職員が把握できるようにしている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の全ての場面に於いて観察を行い、介護記録・申し送り等にて記録に残し、情報の共有に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議を行い、1人ひとりの状況や担当からの意見を話し合い、家族とは面会時や電話等で意向を聞き、介護計画に反映している	職員全員で毎月1回スタッフ会議を開催し、利用者一人ひとりのモニタリングを行っている。ケアカンファレンスは3ヶ月ごとに行い、利用者の要望や状態、主治医からの意見、面会時や電話連絡時の家族からの意見を参考にしながら介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録へ記入し、スタッフ会議で検討・改善の上、三か月に1回の計画の見直しを行っている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを把握し、可能な限り対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りなど行事の際、地域のボランティアを利用し、緊急時には支援して頂ける関係づくりに努めている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他に本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。医師・家族・職員で情報共有を通して適切な医療が受けられるよう支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、協力医療機関の場合は月2回の往診をしてもらっている。眼科、皮膚科などの専門医療機関やかかりつけ医の受診は、基本的に家族の同行となっているが、できない場合は事業所で対応するなど適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署の看護師と職場内の看護師で連携し、介護職は日々の状況を伝え、助言や指示を受けて利用者の健康管理を行っている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医とは日頃から連絡や相談をしており、入院時には情報交換やカンファレンスに参加し、利用者が安心できる環境を作るよう支援している		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族に事業所の方針を説明しており、スタッフ会議で職員間で情報も共有し、安心と安全を確保できるよう支援に取り組んでいる	利用開始時に本人・家族に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合には、本人や家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談し、病院との連携も含めて、全員で方針を共有し支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアル作りや研修・消防署職員によるAEDの使用の訓練を行い、身につけている。事故報告書や気づきをもとに利用者の安全を確保し再発防止に努めている	介護事故防止マニュアルを作成し、事故報告書、ヒヤリハット報告書を整備し、法人の介護事故防止委員会でその予防策を検討するなど、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。救急救命法や脱水症の研修を実習している。全職員対象の応急手当や初期対応の訓練は実施していない。	・全職員対象の応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、消防署・地域の消防分団の協力も得て、昼・夜の避難訓練を行っている。地元自治会の方に理解を得るようお願いしている	防災マニュアルを作成し、年2回消防署の協力で夜間想定を含めた避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方などの研修を実施している。地域の協力が得られるよう働きかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が1人ひとりの尊厳を守り、プライバシーを損なわない声掛けや対応を心掛けている	法人主催の接遇研修に参加し、日々の関わりの中で、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉遣いや対応に気をつけている。トイレ誘導時や入浴時には特に気をつけ、不適切な対応をした場合には、職員間で注意しあっている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で好きな事・したい事を問いかけながら聞いており、言葉で意思表示できない方はそばに寄り添い、表情・行動を観察し、支援している		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で左右されるのではなく、それぞれのペースを大切に、その方らしい過ごし方が出来るよう支援している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により行きつけの美容院に行ったり、ビューティーヘルパーのボランティアに来ていただきその人らしい姿でいれるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に好みの食べ物を聞いたり、一緒に考えながら献立をたて、茶碗洗い等も一緒にいき、同じ食卓で食事を楽しんでいる	利用者の食べたいものや好みを聞いて献立をた、三食とも事業所で食事づくりをしている。食材は、地域の個人商店から購入し、法人内の畑で取れた新鮮な野菜や新米を利用して、利用者は配膳や片付けなどできることを職員と一緒にしている。職員も同じテーブルで会話をしながら食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食記入しており、管理栄養士の指導を受け、1人ひとりの栄養バランス等にも配慮している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声掛け・介助しており、就寝前には、義歯の方は預かり・洗浄・消毒・保管の支援をしている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い、1人ひとりに合わせた排泄や排泄の自立に向けた支援をしている	利用者の排泄パターンや習慣を把握し、時間を見図りながら声をかけや誘導をして、利用者全員がトイレでの排泄ができるよう支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に排泄を促す食材を使用し、水分補給や体を動かす様にし、自然排便に心掛けていく		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴しており、1人ひとりの希望に応じて、シャワー浴・清拭などの対応を行い、ゆっくり入浴を楽しめるよう支援している	入浴は毎日14時から16時半までの間可能で、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しむことができるよう支援している。利用者の状態によって、シャワー浴や清拭、足浴などの支援も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調・1人ひとりの今までの習慣を把握し、日中の活動量を調整する。疲れているようなら、昼寝や休憩をとって頂くよう支援している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルに薬剤提供情報書を入れ、全職員が確認出来るようにしている。必要な情報は受診時、事業所の協力医へ報告している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが今まで習得してきた知恵や趣味など生活歴を把握し、希望をききながら、楽しみ・活躍できる提供している	日常的な洗濯物たたみや部屋の掃除、草引きの他、毎月の活け花教室や習字教室、縫い物、塗り絵、貼り絵、手作り雛や七夕飾りの制作など、職員は月替わりのレクリエーション担当を決めて利用者一人ひとりの役割、楽しみごと、場面作りのための支援ができるよう工夫している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、短時間でも外に出れる機会を作っている。家族との関係が気薄にならないため、一緒に外出してもらうよう依頼している	利用者一人ひとりの希望や状況にそって、近隣への散歩やスーパーでの買物、花見(桜、藤、コスモス等)やさくらんぼ狩り、園芸センターでの鑑賞、誕生日会の外食、初詣や地域で行われる祭りや文化祭などの催し物など、できる限り全員が外出できるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話は使用できる。自宅へ電話される場合は事前に家族と相談・情報交換を行い支援している		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花木を植え、共有空間には季節の花や、誕生日会や行事の写真を貼り、楽しい思い出を語り合える工夫し、季節や生活感がある	玄関や廊下、リビングなど室内全体が広く、明るく、ゆったりとしている。玄関には、活け花が飾られ、壁面には、いろはカルタや格言、習字が貼られ、利用者が製作した季節の壁画の作品を掲示している。大きなソファでは、利用者が談笑したり、テレビを見たり、それぞれが思い思いの場所で居心地良く過ごしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で1人ひとりの自席が決まっており、気の合う同士で楽しく過ごし、1人が好きな方にも心置きなく過ごせる環境を作っている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む物は入居時家族と話し合い使い慣れた物や馴染みの物を活かし、その人らしく居心地良く支援過ごせるよう支援している	ベッド、小ダンス、洗面台は備え付けで、テレビや仏壇、家族の写真や絵、本等使い慣れたものを持ち込み、居心地の良い生活空間となっている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるようフローリングはバリアフリーにしてあり、各所に手すりをつけ、1人ひとりに合わせた声掛け・見守りで自立を促している		